

第43回

全史料協

全国(神奈川県相模原)大会及び研修会

大会テーマ

公文書館法30年 —今、問われる公文書管理—

期 日 平成 29 年 11 月 9 日(木)・10 日(金)

会 場 杜のホールはしもと

主 催 全史料協 (全国歴史資料保存利用機関連絡協議会)
共 催 相模原市
後 援 独立行政法人国立公文書館 神奈川県
(予定) 相模原市教育委員会 神奈川県市長会
神奈川県町村会

開催要項

- 1 期 日 平成 29 年 11 月 9 日(木)・10 日(金)
- 2 主 催 全史料協（全国歴史資料保存利用機関連絡協議会）
- 3 共 催 相模原市
- 4 後 援 独立行政法人国立公文書館 神奈川県 相模原市教育委員会 神奈川県市長会
(予定) 神奈川県町村会
- 5 会 場 杜のホールはしもと
〒252-0143 神奈川県相模原市緑区橋本 3-8-21 TEL042-775-3811(代表)
視察①相模原市立公文書館 緑区久保沢 1-3-1 TEL042-783-8053
②相模原市立博物館 中央区高根 3-1-15 TEL042-750-8030
- 6 内 容 (1)総会
(2)大会テーマ研究会
(3)研修会(視察を含む)
(4)機関会員・協賛企業展示、ポスターセッション
(5)交流会
- 7 申込方法 「参加申込方法」(p.8)をご覧ください、全史料協ウェブサイトのオンライン申込みフォームを利用してお申込みください。オンライン申込みが難しい場合は、別紙「申込書」にご記入のうえ、大会・研修委員会事務局までメール、FAX 又は郵送にて、お申込みください。
- 8 その他 (1)会員相互の親睦を図るため、参加者名簿(氏名・所属[機関名又は都道府県名])を作成します。申込時に名簿掲載の可・否をご記入ください。記入がない場合は掲載しないこととします。なお名簿作成にあたっては個人情報の保護に十分配慮し、その用途を本大会に限定しますので、趣旨をご理解の上、掲載にご協力ください。
(2)手話通訳等を希望される方は、申込時に通信欄にその旨をご記入ください。

会 場

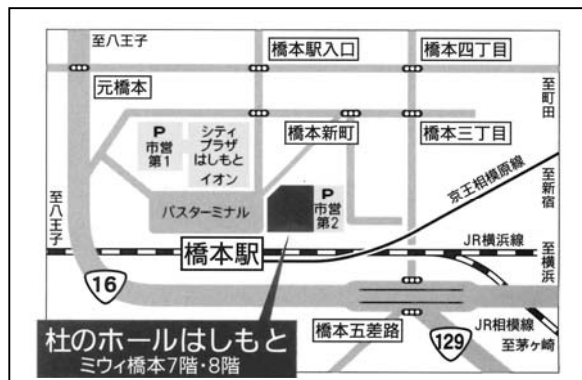
○杜のホールはしもと

JR 横浜線・相模線、京王相模原線「橋本駅」北口を出て右側「ミウイ橋本」7・8 階

○研修会 A(視察)

A 班 相模原市立公文書館

B 班 相模原市立公文書館・相模原市立博物館



大会日程

| 11月9日(木) | |
|----------|---|
| 9:10 | [研修会A]視察(各班定員45名) A班:相模原市立公文書館 橋本駅集合9:30 橋本駅解散11:30(予定) B班:相模原市立公文書館、市立博物館 淵野辺駅(横浜線)集合9:10 橋本駅解散12:15(予定) |
| 11:00 | 受付(7階ホワイエ) |
| 12:15 | 移動・昼食・休憩 展示・ポスターセッション (7・8階ホワイエ) |
| 13:00 | [研修会B] 高木秀彰氏 (寒川町) (7階ホール) [研修会C] 西村豪氏 (尼崎市) (8階多目的室) |
| 14:00 | 休憩 |
| 14:10 | [研修会D] 八木寛元氏 (豊田市) (7階ホール) [研修会E] 富田三紗子氏 (大磯町) (8階多目的室) |
| 15:10 | 休憩 |
| 15:30 | 総会 (ホール) |
| 17:20 | 移動 |
| 17:30 | 交流会 (ソレイユさがみ) * 交流会の詳細は、p.5をご覧ください。 |
| 19:30 | |

| 11月10日(金) | |
|-----------|--|
| 9:00 | 受付(7階ホワイエ) |
| 9:30 | [調査・研究委員会報告](ホール) 「公文書管理及び保存の実態調査について —災害時作成文書を中心に—」 |
| 10:10 | 休憩 |
| 10:20 | [大会テーマ研究会第1部] 「地方自治体における公文書管理」 報告①飯田生馬氏(相模原市) 報告②田中健一氏(鳥取県) |
| 12:00 | 昼食・休憩・展示・ポスターセッション (7・8階ホワイエ) |
| 13:20 | [大会テーマ研究会第2部] 「公文書館法30年座談会」 コメンテーター 水野保氏・新井浩文氏・蓮沼素子氏・ 早川和宏氏 聞き手 定兼学氏・松崎裕子氏 |
| 15:00 | 休憩 |
| 15:15 | [総合討論] |
| 16:20 | 閉会行事 |
| 16:30 | |

11月9日(木)

■研修会 (A A班 9:30~11:30、B班 9:10~12:15)

A A班「相模原市立公文書館の見学」

B班「相模原市立公文書館、市立博物館の見学」

相模原市は、平成 26 年に公文書管理条例を施行し、旧城山町議場を活用して市立公文書館を設置しました。平成 28 年度末時点で、歴史的公文書約 21,000 点・行政資料約 3,500 点などを所蔵しています。

一方、市立博物館はプラネタリウムを併設する総合博物館として平成 7 年に開館しました。現在『相模原市史』続編・『津久井町史』の編さん事業も所管しています。

本研修は、2 班に分かれてバスで移動し、施設の見学を実施します



相模原市立公文書館

■研修会 (B・C 13:00~14:00)

B「アーカイブズ入門 : 市町村アーカイブズの役割」

高木 秀彰氏(寒川文書館長)

わが国には、国、都道府県、市町村、大学、企業などさまざまな機関が設置するアーカイブズがあり、それぞれが設置目的に沿って貴重な資料の収集・整理・保存・活用に取り組んでいます。その中であって、市町村の設置するアーカイブズは、地域住民との距離の近さに特徴があるのではないかと思います。

この研修では、私の勤務する寒川文書館の日常の活動を具体的にご紹介しながら、レファレンス、普及活動、ボランティアなど、地域住民とともに歩む市町村アーカイブズのあり方について考えてみたいと思います。

C「市民協働によるデータベース構築—尼崎市の事例から」

西村 豪氏(尼崎市立地域研究史料館 嘱託員)

尼崎市立地域研究史料館では、現在レファレンス業務や資料整理を進める上で独自に開発したシステムを使用しており、その一部は絵はがきデータベース”PCD”などとして館のウェブサイト上でも公開しています。また、近年では写真データベースの構築にも注力しているところです。史料館が提供しているこれらのデータベースの特徴、システムの開発を進めていく上での留意点や諸課題、またそれらの多くが市民ボランティアとの協働のなかから構築されたものであることの意義などについて報告します。

<休憩 10分間>

■研修会（D・E 14:10～15:10）

D 「豊田市の公文書管理」(仮)

八木 寛元氏(豊田市総務部庶務課 担当長)

豊田市では、平成25年4月から行政文書及び歴史公文書を管理・公開する場として、公文書管理センターを開設しました。開設に当たり、情報公開条例等を改正し、歴史公文書も情報公開請求等の対象としています。

本事例報告では、公文書館ではなく公文書管理センターを開設するに至った経緯、情報公開条例等の改正内容、歴史公文書公開までの流れ、合併町村文書の整理、今後の課題等について報告します。当事例が、今後の制度設計等を検討される上で参考となれば幸いです。

E 「用田村伊東宗兵衛家文書の整理と活用」

富田 三紗子氏(大磯町郷土資料館 学芸員)

大磯町郷土資料館では、平成24年度から市民のボランティアサークルとして古文書解読クラブを立ち上げ、館所蔵の用田村伊東宗兵衛家文書を解読し、3年後にその成果を企画展として発表しました。伊東家文書は現在の藤沢市用田に関する史料であり、縁あって別の地域で保管されることになったため、自治体史編纂の対象になっていませんでした。市民と共に解読し、整理して企画展として発表したことにより、行政区分を越えて古文書を介した市民のつながりが生まれました。地域資料の重要性と、現在の市民にも親しまれる古文書の力を改めて共有します。

■ 交流会 ■

交流会会場は、大会会場に隣接する再開発ビル「シティ・プラザはしもと」(イオン橋本店)6階です。各自移動してください。

会場：ソレイユさがみ(相模原市立男女共同参画推進センター)

緑区橋本 6-2-1 シティ・プラザはしもと 6階

時間：17:30～19:30

会費：6,000円(大会受付時に徴収)



11月10日(金)

■調査・研究委員会報告（9:30～10:10）

「公文書管理及び保存の実態調査について―災害時作成文書を中心に―」

高村 恵美氏(調査・研究委員会委員 常陸大宮市文書館主任)

林 貴史氏(調査・研究委員会委員 常総市総務部総務課非常勤特別職)

昭和62年に公文書館法が成立してから30年。この間、行政情報公開法、国立公文書館法、公文書管理法が制定され、公文書を取りまく法整備がなされました。

公文書管理は、收受・作成から保管、保存への流れが適切に行われることによって、初めて完結するものです。東日本大震災から5年が過ぎ、当時作成された文書の多くも保存期間満了となる時期を迎えています。

そこで、調査・研究委員会においては、東日本大震災以降の災害時作成文書を対象に、管理の実態を調査し、公文書管理の有り様を検討することとし、その概要を報告します。

■大会テーマ

公文書館法 30 年—今、問われる公文書管理—

■大会趣旨

公文書館法が成立して 30 年が経過しました。同法が主として非現用文書を扱う公文書館について定めたのに対して、公文書管理法が施行された今日、現用文書の作成、管理、公開から歴史的保存・活用までを一体的に整備・運用していくことが、国や地方に求められています。

しかしながら、公文書管理法が地方に求める管理条例の制定や運用といった課題について、各地方団体の動きはかならずしも活発であるとは言えません。さらに、公文書館法が求める施設の設置や専門職員の育成・配置は今日に至るまで十分な進展を見ておらず、かつての”文書館後進国”という指摘が大きく改善されたとはいえないのが現状です。

こういった到達点をふまえて、大会テーマ研究会第1部は、公文書管理をめぐる相模原市と鳥取県の取り組み事例に学びます。そのうえで、第2部座談会は各世代・分野のコメンテーターにご登壇いただき、法施行後の 30 年をふりかえりつつ、現在問われる課題について議論します。全史料協として、さらには日本のアーカイブズ分野全体として何に着目し、今後どう取り組んでいくのか。会場のみなさんもまじえて意見交換できればと考えています。

■大会テーマ研究会 第1部（10:20～12:00）

「公文書館法と公文書管理法が地方公共団体に求めるものとは」

飯田 生馬氏(相模原市立公文書館長)

公文書館法が昭和 62 年 12 月に制定されてから今年には 30 年を迎えます。この間いくつもの文書館や史料館が開設されてきました。地方公共団体においては、歴史資料としての重要な公文書の保存及び利用が進んできています。これに対し公文書管理法は平成 23 年 4 月に施行されましたが、どれだけの団体が法の趣旨にのっとり文書の適正な管理に関して必要な施策を策定し実施してきたのか、なかなか進まない条例化とその課題となる点について相模原市の現状を紹介しながらあらためて考え直してみることとします。

「鳥取県における市町村等と連携した歴史公文書等の保存と活用の取組」

田中 健一氏(鳥取県立公文書館長)

鳥取県では、歴史的に重要な公文書等の保存及び利活用に関する県、市町村、県民等の責務・役割と相互の連携・協力を定めた全国初の条例となる「鳥取県における歴史資料として重要な公文書等の保存等に関する条例」を制定しました。(平成 29 年 4 月 1 日施行)

今回の報告では、県民の貴重な知的財産である歴史公文書等の保存と活用についての鳥取県のこれまでの取組や課題と、新条例の理念を実現するために、県と市町村、県民等が連携・協力して将来の世代へ歴史公文書等を引き継いでいくために進めている新たな取組について、ご紹介します。

■大会テーマ研究会 第2部（13:20～16:20）

「公文書館法 30 年座談会」(13:20～15:00)

コメンテーター 水野 保氏
新井 浩文氏(埼玉県立文書館 学芸主幹)
蓮沼 素子氏(大仙市アーカイブズ 主査)
早川 和宏氏(東洋大学法学部教授・弁護士)
聞き手 定兼 学氏(岡山県立記録資料館長・全史料協会会長)
松崎 裕子氏(全史料協個人会員)

<休憩 15分間> 休憩中に総合討論のための質問票を受け付けます

総合討論(15:15~16:20)

司会 辻川 敦氏(大会・研修委員会委員長 尼崎市立地域研究史料館長)
櫛原 直樹氏(大会・研修委員会委員 藤沢市文書館)

■閉会行事 (16:20~16:30)

■ 機関会員出版物等展示・協賛企業展示・ポスター展示 ■

会員機関の刊行物やパンフレット、協賛企業の取扱品・図書・出版物等を展示します。また、機関会員の事業等の紹介や、個人会員の研究をまとめたポスターも掲示します。

ポスターセッションは、コアタイムを 12:00~13:00 に設定しました。この時間帯にはポスターの展示者が、発表形式で説明を行うとともに、自由な意見交換ができます。

情報収集や交流の場として、多くの皆様に会場に足を運んでいただきたいと思います。

展示時間 11月9日(木)11:00~11月10日(金) 14:30

※ポスターセッションのコアタイムは両日とも 12:00~13:00

■ 大会関連企画のご案内 ■

神奈川相模原大会の関連企画として、神奈川県内の機関会員では以下のような見学会・展示会・講演会を各機関にて開催いたします。どうぞお運びください。詳しい内容は、各機関までおたずねください。

【寒川文書館】 神奈川県高座郡寒川町宮山 135-1 電話 0467-75-3691

ウェブサイト <http://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp/opac/bunsyo/index.html>

①施設見学会

11月11日(土)10:00~11:30 文書館および併設の寒川総合図書館の見学
定員 30名(11月10日までに寒川文書館に電話で申込)

②企画展「昭和の広告マッチラベル—寒川の商店と旅先の記憶—」

6,000点あまりに及ぶマッチラベルの個人コレクションから流通史・デザイン史を考える展示
10月7日(土)~2月28日(水) 9:00~19:00(土曜・日曜・祝日は17:00まで、月曜休館)
申込不要

【藤沢市文書館】 神奈川県藤沢市朝日町 12-6 電話 0466-24-0171

ウェブサイト <http://digital.city.fujisawa.kanagawa.jp>

所蔵資料展「育む水・暴れる水—村岡の利水—」(仮題)

11月6日(月)~12月27日(水) 8:30~17:00(土曜・日曜・祝日休館)

申込不要

参加申込方法

1 大会参加について

(1) 参加区分と各参加費

| 参加区分 | 大会参加費 | 資料代 | 交流会参加費 | |
|------|--------|--------|--------|-------------|
| 会員 | 無料 | 1,000円 | 6,000円 | 機関会員・個人会員とも |
| 非会員 | 1,000円 | 1,000円 | 6,000円 | |

(2) 研修会(視察を含む)は、ご希望のコースをそれぞれお選びいただき、申込フォームの該当箇所に印を付けてください。

* 研修会Aは、移動手段の都合上、**各班とも定員45名(先着順)**とします。定員に達した場合、全史料協ウェブサイトにも記載しますので、申込みの前にご確認ください。

(3) 交流会への参加・不参加は、大会参加申込時に合わせて指定してください。

2 お申込み先・お問合せ先について

(1) お申込み先・お問合せ先

全史料協ウェブサイト掲載のオンライン申込フォームを利用してお申込みください。

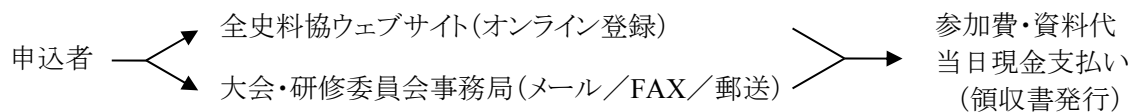
オンライン申込みが難しい場合は、別紙「申込書」にご記入のうえ、大会・研修委員会事務局までメール・FAX 又は郵送にてお申込みください。

▶ 全史料協ウェブサイト: <http://jsai.jp/taikai/sagamihara/index.html>
(申込みフォームリンク先: <https://goo.gl/eMgrwT>)

▶ メール/FAX/郵送送付先:

〒660-0881 兵庫県尼崎市昭和通 2-7-16 尼崎市立地域研究史料館
全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 大会・研修委員会事務局
担当 松岡 弘之(まつおか ひろゆき)
電話:06-6482-5246 FAX: 06-6482-5244
E-mail:jsai@archives.city.amagasaki.hyogo.jp

(2) お申込み処理の流れ



3 申込み締切 平成29年10月13日(金) 必着

4 その他

- ・今大会は宿泊ホテルの手配は行いませんので、参加者各自にて手配ください。
- ・また、弁当の手配も行いません。会場ビル内および周辺に飲食店が多数あります。各自昼食をおとりください。
- ・大会冊子は参加者にのみ配布し、参加されなかった会員への郵送は行いません。後日ウェブサイトに掲載いたしますので、ダウンロードしてください。